

2026年度
事業計画書

自 2026年4月1日
至 2027年3月31日

公益財団法人日本フラッグフットボール協会はフラッグフットボールが持つ「個の尊重と共生」という優れた価値を広く社会に普及し、次世代を担う子供たちの『生きる力』を育てるとともに、家族や地域などの多種多様なコミュニティの創造と活性化を図り、社会の発展に寄与することを目的として、2026年度に以下の事業を行うものとする。

1：小学校向け教材・用具整備事業

小学校体育授業におけるフラッグフットボールの学習環境整備を目的として、教材および用具の製作・寄贈を行う。

授業で使用する「ボール」の寄贈についてはノエビアグリーン財団の助成を受けて実施する。補助教材「作戦ブック」および用具「フラッグ」の製作・寄贈については、一般財団法人日本宝くじ協会の助成を受けて実施する。

2：指導者育成・講習事業

フラッグフットボールを用いた学びの活動が、各地で円滑かつ継続的に実施されることを支えるため、指導者講習事業を実施する。

本事業では、日常的に子どもと関わる立場にある指導者を主な対象として、活動の進め方、安全に配慮した指導方法、教材・用具の活用等に関する講習を行い、現場における指導体制の充実を図る。

地域指導者等を対象とした取組については、独立行政法人国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金の助成を受けて実施する。

3：学校体育における実践支援・モデル形成事業

教育活動におけるフラッグフットボールの円滑な導入および定着を目的として、人的支援および実践の整理を行う。全国の学校に講師を派遣し、授業実践支援および教員研修を実施する。また、実践の成果や課題を整理し、今後の展開に資する資料の作成等を行う。

講師派遣については公益財団法人鈴木道雄記念財団の助成を受けて実施する。

4：情報発信・広報事業

フラッグフットボールの普及および理解促進を目的として、情報発信および広報活動を行う。

フラッグフットボールに関する情報、教育的意義、全国の取組事例等を掲載した広報誌を制作・発行するとともに、公式 WEB サイトおよび公式 SNS を活用した継続的な情報発信を行う。

また、フラッグフットボールを用いた学習活動の成果発表の機会として「さくせんコンクール」を実施し、参加者による取組の共有および学びの深化を促す。

広報誌の制作・発行は独立行政法人日本スポーツ振興センター スポーツ振興くじ助成金を活用して実施する。

5：大会協力・コミュニティ形成事業

フラッグフットボールを継続する環境の整備およびフラッグフットボールを通じたコミュニティ形成を目的として、各種大会および関連イベントへの協力・後援を行う。

「日本フラッグフットボール選手権」については協力団体として参画し、大学 OB 大会「ハドルボウル」については後援を行う。

また、フラッグフットボールの普及促進、人材育成、地域コミュニティの形成に資するイベントについて、主催・共催・後援または協力という形で参画し、競技者、指導者、関係者の交流促進およびフラッグフットボール文化の醸成を図る。

6：用具開発・流通促進事業

フラッグフットボール用具の品質向上および安定供給を目的として、用具開発に関する検証、審査および契約管理を行うとともに、流通体制の整備を推進する。

※ 本事業計画書の制作物の名称、数量等は一部変更になる場合があります。

以上